

WATER  
STAND

ウォータースタンド株式会社  
埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-463  
お問合せ先 0120-032-114

<https://waterstand.co.jp> [企業情報サイト]  
<https://waterstand.jp> [サービスサイト]



WATER  
STAND

ウォータースタンド レポート 2020



この製品は、適切に管理されたFSC®認証林およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。



VOC (揮発性有機化合物) 成分の少ない植物油インキを使用しています。



有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷方式にて印刷しています。



だれにも読みやすい、ユニバーサルデザインフォントを使用しています。

# MISSION

ウォータースタンドは  
未来の世代のために  
より良い地球環境を引き継ぎます。

わたしたちは、2030年までに  
日本の使い捨てプラスチックボトルを  
30億本減らします。

# WATER STAND



# VISION

ウォータースタンドは  
マイボトルを携帯する  
新しい文化を創り  
気候変動とプラスチックによる  
環境問題に取り組みます。



# WATER STAND

## NEXT GENERATION

ウォータースタンドの更なる次世代

代表取締役

# 本多 均

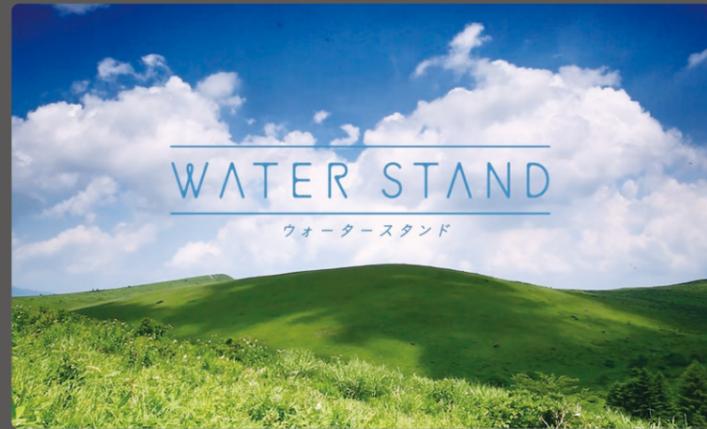
## 「ボトルフリー」へのチャレンジは私たちの決意です

2020年2月以降、新型コロナウイルス感染症が拡大し大人たちだけでなく子どもたちも大きな影響を受けました。コロナ禍により、感染症拡大を防止するために使い捨てプラスチックの使用量が増加しました。その一方で、ESG(環境・社会・ガバナンス)投資への資金流入額は急増しました。

経済の流れが大きく変革するなか、私たちウォータースタンドが長期的に社会から存在することを許されるにはどうしたらいいのか。私たちは事業の目標を見直しました。目先の売り上げや利益ではなく、「日本国内で出荷されている約250億本の使い捨てプラスチックボトルのうち、30億本を削減する」ことを事業目標に設定し直しました。

# 私たちが目指すサステナブルな社会

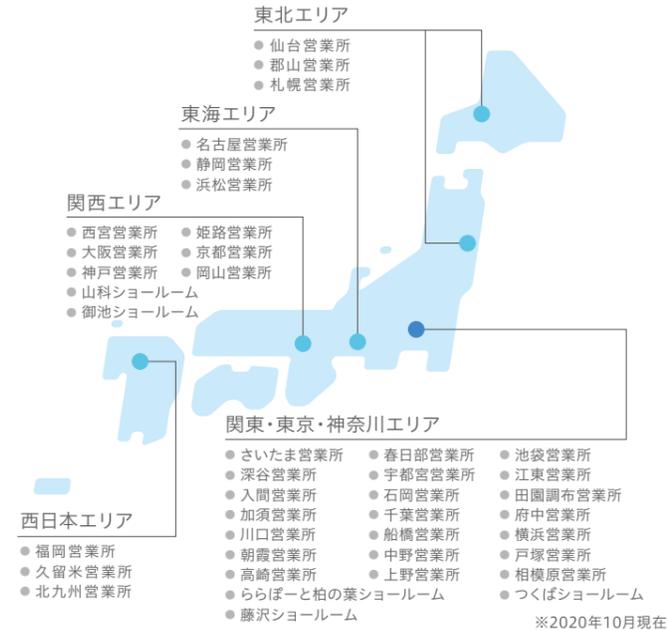
# ボトルフリープロジェクトの拠点を全国に拡大



ウォータースタンドのミッションとビジョンに関する動画はこちらの二次元コード・URLよりご覧いただけます。



<https://youtu.be/VsstFOIA6x4>



水道直結ウォーターサーバー「ウォータースタンド」は、ボトル入り飲料水と同様に美味しいお水を飲むための「機能」をレンタル定額制でご利用頂くものです。「ウォータースタンド」の設置からレンタル期間中のメンテナンス、アフターサービスの全てを当社が担うことで、ご提供のお水の安全性と安心感を保持しています。お客様はボトル入り飲料水を購入する必要がなくなるだけでなく、美味しいお水を飲むためにこれまで当たり前にかかっていた時間やコストがなくなります。今、私たちの行動を変えなければ地球は限界を

迎えるでしょう。このまま何の手も打たなければ、水が争いの原因となる時代が来るとまで言われています。

私たちが目指すのは、「ごみを減らす」といったボトル入り飲料水を消費するプロセスの一部分を改善することではありません。プラスチックボトルの「生産、運搬、消費、回収、リサイクル」という消費のプロセス全体を見直し、作っては捨てるリニア（一方通行）型経済から、サーキュラー（循環）型経済に変革していくための働きかけを目的としています。

日本国内で出荷される飲料用プラスチックボトルは約250億本※に上ります。このうち10%以上の削減にチャレンジすると、全国対応可能な体制を構築することが必要です。そこで、2019年からは全国の営業所でショールームを併設、商業施設内にも出店を開始しました。いずれも地域の皆様がいずれも給水でき、気候変動やマイクロプラスチック問題などの環境課題について知り、より良い行動について私たちと一緒に考えて頂ける場所を目指しています。私たちが目指すのは、マイボトルを携帯する

ことでいつでも喉を潤せ、使い捨てプラスチックが減る気持ちよさを感じ、便利さを自分で選べる軽やかでサステナブル（持続可能）な社会です。目標を達成するためには、もっと多くの方へ私たちが気づいたことをお伝えし、より良い社会を創る営みに参加して頂く必要があります。未来の世代から「あの時のおかげで今がある」そう言われることを皆様と共に目指して参ります。 ※ PETボトルリサイクル推進協議会調べによる2018年度における数値を参照

## DATA

### 清涼飲料用PETボトルの出荷本数と、その環境負荷（CO<sub>2</sub>排出量）の推移



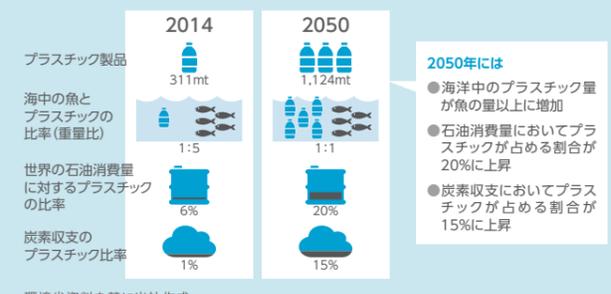
### ミネラルウォーターの市場規模推移



### 産業廃棄物最終処理場の残余容量と残余年数の推移



### 2050年までに海中のプラスチックの重量は魚の重量を超えるという予測



# プラスチックボトル30億本の削減を目指すボトルフリープロジェクト

ウォータースタンドは、未来の世代が最も大切なステークホルダーであると考えています。健やかな地球を未来の世代に引き継ぐために、多くのパートナーにボトルフリープロジェクトへの参加を呼び掛けています。



※マイボトルアクション2020フォトキャンペーン入賞作品 P21



## 地域一体で取り組む

健やかな生活は安全で安心な地ドは待ったなしの社会課題にス域インフラによって実現します。ウォータースタンド感をもって取り組むために、全国の地方自治体との連携を推し進めています。

域インフラによって実現します。ウォータースタンド感をもって取り組むために、全国の地方自治体との連携を推し進めています。

## 全国にプロジェクトの輪を広げる

脱プラスチックをはじめとする環境問題への取り組みは一つの地域だけで完結するものではありません。ウォータースタンドは活動範囲を全国に広げ、国内全体でのプロジェクト進捗状況を共有しています。

境問題への取り組みは一つの地域だけで完結するスタンドは活動範囲を全国に広げ、国内全体での取り組みを共有しています。

## 誰もが参加できる

使い捨てプラスチックボトルを減らす取り組みの第1歩は、マイボトルを携帯することが身をもたらしたいと考えています。ウォータースタンドは自分た会に具体的でポジティブな影響

らす取り組みの第1歩は、マイボトルを携帯することが身をもたらしたいと考えています。

## 進化し続けるインフラ

当プロジェクトを支える給水スタンドに求められる機能は、設置する場所や給水する方の属性によって変わります。多くの人が使いやすい常温の水のみのタイプをご用意

ドに求められる機能は、設置する場所や給水する方とのパートナーシップを進めていくために電気を使用するなど多様なタイプの商品を開発し続けています。

52期



2020年6月期  
使い捨て  
プラスチックボトル

**5,701万本削減**

52期



二酸化炭素排出量

**5,991.86t-CO<sub>2</sub>削減**

P23 算出方法は「環境・社会データ」へ

# ウォータースタンドが実現する未来

ウォータースタンドは、2019年から法人・個人のお客様、自治体・地域社会の皆様とともに「ボトルフリープロジェクト」を開始しました。パートナーシップによって30億本の使い捨てプラスチックボトルを削減し、持続可能な社会を実現します。

## 軽やかでサステナブルな社会の実現



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

### ウォータースタンドが提供する価値

安全で安価な飲料水の提供  
ターゲット [SDGs6.1]

豊かな水のあるまちづくりへの貢献  
ターゲット [SDGs6.b]

2030年  
使い捨て  
プラスチックボトル  
30億本  
削減



2020年からは、どなたでも給水できる「ウォータースタンド」の呼称を「給水スタンド」とリニューアルし、マイボトルを携帯する人のインフラとしてより多くの方に活用頂くことで使い捨てプラスチックボトルによる環境問題解決に貢献することを決定しました。

### 2019年 ボトルフリープロジェクト開始



2020年6月期  
「ウォータースタンド」  
設置台数  
8.5万台

「ウォータースタンド」  
事業開始

特別  
対談

# 地方自治体と実現する 持続可能な地域づくり



TAKAHITO YAMANASHI

神奈川県三浦郡葉山町  
町長

山梨 崇仁様

ウォータースタンド株式会社  
代表取締役

本多 均

HITOSHI HONDA

## 葉山町と締結した「プラスチックごみ削減の推進に関する協定」のあらまし

葉山町は、ゼロ・ウェイストに向けた「はやまクリーンプログラム」を推進されており、町内の公共施設における自動販売機でのプラスチックボトル入り飲料の販売を廃止しマイボトルの携帯を呼び掛けています。2019年9月、当社は同町と連携協定を締結し、公共施設8カ所に「ウォータースタンド」を設置しこの取り組みを後押ししています。

対談動画  
配信中



## 消費の仕組みから取り組む

### ゼロ・ウェイスト

**本多** 私たちウォータースタンドは、環境保全への取り組みとして、2030年までに30億本の使い捨てプラスチックボトル削減をミッションに掲げ、大きく動き出しています。この目標の達成に向けては、地域とのパートナーシップが何より重要であることは言うまでもありません。2019年6月に

本社のある埼玉県さいたま市と協定を結び、市内の公共の場に「ウォータースタンド」を設置する取り組みをスタートしたのを皮切りに、現在（2020年9月末）までに5地域の自治体と各々の取り組みに合う形での協定を締結しています。山梨さんが町長を務めておられる葉山町もそのひとつです。

葉山町は、セーリング※1の聖地であり、サステナブル意識が高く、海洋ごみをはじめとする環境

保全に早くから積極的に取り組んでおられますね。

**山梨** 御用邸の町・葉山町としてご存知の方が多いかもかもしれません。葉山町は人口3万3,000人ほどの小さな町ですが、日本近代ヨット発祥の地で、住民にヨット関係の方をはじめ海に精通する方が多く、必然的に海の世界の環境についての意識が非常に高い町です。そうしたこともあり、葉山町を環境の町として発信しているということで、「はやまクリーンプログラム」が生まれ、それを実現する非常に効果的な方策のひとつとして、ウォータースタンドと協定を結びました。

**本多** 最初にお話したウォータースタンドのミッションは、昨日、今日、明日、同じことをしては2030年が到来した時にサステナブルでいられるだろうか、地球環境は悲鳴を上げているのではないかという問題意識からスタートしています。この問題意識が生まれて、何から始めたらいいかを考え、私たちは水筒を持ち歩き、身近なプラスチックボトルを減らすことから活動をスタートしました。そういった身近な第一歩を踏み出して頂くことがSDGs達成にとって大事なことだと思います。

**山梨** SDGsは、日本にとってはそれほどハードルの高いものではないと思います。SDGsを使ってその先どんなアクションを起こせるのか、どう広がっていくのか、社会をつくっていくのが鍵になります。熱中症の問題や気候変動の問題について、われわれ人間の責任として進むべき方向は明白になっていると思います。SDGs未来都市※2である神奈川県の「かながわプラごみゼロ宣言」への賛同と、海洋環境保全のための活動を行うNGO、一般社団法人セイラーズフォー

SDGsは、日本にとっては  
それほどハードルの  
高いものではないと思います (山梨様)



ザシーとの協定を踏まえてスタートした「はやまクリーンプログラム」も、マイクロプラスチック問題をはじめ、深刻化する海洋汚染や地球温暖化への対策としてプラスチックごみを最初の時点から極力生み出さないことを呼び掛けています。  
**本多** 海辺を魅力的な資源として持っている葉山町は、マイクロプラスチックの脅威についても身近に感じていらっしゃるのでしょうか。プラごみは現在、資源ごみとして回収され再利用される仕組みが形成されてはいますが、実はきちんと処理されず、環境中に流出してしまうことも少なくありません。そして、それらが最終的に行き着く先が「海」です。マイクロプラスチックとは、そういったプラごみが海に浮遊し、紫外線や波の影響で5mm以下※3になったもののこと。結果的に海の藻屑となり消えてしまえばよいのですが、そうはならない。海に沈殿するPCBと化学反応を起こしたり、プランクトンや小さな魚が食べたり。目に見えないものが環境に与える脅威こそ、本当に恐ろしいと思います。

**山梨** おっしゃる通りです。だからこそ、発想を転換し、ごみ問題も、ごみとなってからではなく、ものを生み出す時点、あるいは消費するその瞬間にも、もっと目を向けなければいけないのです。

※1 ヨットやウインドサーフィンなどの帆走船で技術やスピードを競うスポーツ。  
※2 全国でSDGs達成に向けた優れた取り組みを行う自治体を内閣府が「SDGs未来都市」として選定する制度  
※3 1mm以下のプラスチック粒子と定義する場合もある



身近な第一歩を踏み出して  
頂くことがSDGs達成にとって  
大事なことです (本多)

環境教育にも貢献する  
ウォータースタンド

**本多** 葉山町とは2019年9月に協定を結ばせていただき、現在、公共施設8カ所12台(対談時、2020年7月時点)に「ウォータースタンド」を設置させていただいています。締結にあたって、特にどういったことに魅力を感じていただけたのでしょうか。

**山梨** 最初に営業の方からお話を伺った時に、「安全安心でおいしい水を、水道直結で、マイボトルに入れて飲むスタイル」だということに、大きな魅力を感じました。逆にいうと、ボトルに汲み、そこから飲むことしかできない(笑)。これを「面白い!」と受け止めました。口を近づけてそのまま飲むこともできなければ、紙コップも設置されていませんから、マイボトルなしには利用できないわけです。公共の場所に、あえてそのスタイルを設置することにとっても大きな意味があると思ったのです。水筒などのボトルを持ち歩くというのは、一見、不便に思えますが、カバンはもちろんポケットに入るぐらいのミニボトルで十分。わざわざプラスチックボトルで水を買わなくても、ミニボトル

に簡単に汲み足せて、実際、慣れれば何の面倒くささありません。しかもその水がとてもおいしい。発想の転換が自然と促されていくわけです。

**本多** 単に、安全安心でおいしい水を提供することだけでなく、「新しい持続可能な社会に向けたライフスタイルの変革」にも役立つものとして、信念をもって事業活動を行っていますので、そのお言葉には本当にやりがいを感じます。導入していただいて1年ほどですが、効果は数字にも表れているのでしょうか。

**山梨** しっかり表れましたね。町役場の例ですが、「ウォータースタンド」が設置されてから、職員の多くがマイボトルを持参するようになり、町役場のプラスチックボトルごみの排出量が1年間で94%も削減しました。

**本多** それはうれしい数字ですね。

**山梨** 「ウォータースタンド」の導入によって、役場を中心にプラスチックボトルを買うというこれまで当たり前だった行為にちょっとした心の引っ掛かり、気づき生まれ、このムーブメントが町全体に広がっていく気配を感じています。導入と同時に、運動公園を含む公共施設の自動販売機からペットボトル飲料を全て廃止したのですが、当初は夏の熱中症対策として残すべきではないかなど、いろんな議論が起こりました。私たちはこれを、変化の過程だと捉えています。すでに子どもたちの多くは水筒を持ち歩いており、教育サイドではマイボトルを持つことがどのように社会貢献につながるのか、環境への理解を深める機会にもなっています。きっと大人たちにも同様の動きが生まれてくると思います。

「ウォータースタンド」の導入で、  
これまでの当たり前、  
変化が起きました。(山梨様)

**本多** 葉山町では、スマホで簡単に給水スポットが検索できる仕組みも導入しておられますね。熱中症対策という観点でも、水筒を持ち歩く文化が広まると良いと思います。

**山梨** ええ、これからさらに各所での設置も検討していますので、「葉山に来たら、おいしい水をボトルに汲んで飲める」という魅力も発信できる町にしていきたいですね。

パートナーシップが生む、よりよい未来

**本多** 山梨町長が「地域の魅力の発信」というお話をされましたが、環境問題というのは、地球環境という視点で見ることでも大事ですが、同時に、もっと地域の社会システムや経済システムと連動させ、地域づくりの重要なファクターとして捉えなければいけませんね。

**山梨** ウォータースタンドとのパートナーシップに魅力を感じるのは、まさにそこです。ごみ問題では、収集の仕方や資源ごみの活用などが行政の責任としてまず挙げられ、それはそれで非常に重要なことなのですが、葉山町が強化したいと考えているゼロ・ウェイストにおいては、ものを消費するプロセス全体を大きく変化させていかなければいけません。その最初の部分が変わると、ごみ処理にかかる行政コストの削減も大きく見込めるわけですから。その分を教育や福祉、医療などに回すことができる。つまり、税金の有効活用ができるわけです。消費の最初のところでの取り組み、いわば社会システムの無駄を無くすには、やはり官民の創意工夫による連携なくしてはありえないと思います。

**本多** 確におっしゃる通りで、パートナーシップをもとに互いに環境認識を高め合っていけば、より大きなムーブメントを起こせると思います。

私たちウォータースタンドも、当初の事業形態は、ガロンボトルと呼ばれる12Lの水が入ったボトルを提供するものでした。水の安全性やおいしさは何ら変わらないものなのですが、そのガロンボトルは結果的にプラごみになりますし、それだけでなく、トラックで輸送する際に大量のCO<sub>2</sub>を排出する。それが水道直結の「ウォータースタンド」になったことで、社員の環境への意識も大きく変わったのです。自分たちが社会に貢献できる仕事に従事できていることに喜びを覚え、個々の日ごろの環境への取り組みも目を見張るほどになっています。行政で活躍されている皆さんも同じだと思います。これからますます「ウォータースタンド」を通じて地域とのパートナーシップを図り、ともに持続可能な社会をつくる一員でありつづけたいと考えています。



# 地方自治体との協定締結事例

## 2019年6月 さいたま市

さいたま市は、プラスチックごみ削減のため、マイボトル・マイバッグ運動を推進されています。  
当社はこの運動の一環として、市役所や市営施設に「ウォータースタンド」を設置しています。



## 2020年1月 京都市

京都市は、「京都市プラスチック資源循環アクション～プラスアクション12～」をとりまとめ、プラスチックごみの発生抑制を推進されています。当社は、京都市と連携協定を締結し、アクションの一環として「ウォータースタンド」を公共施設・民間施設などに「給水スポット」として設置し、この取り組みを推進しています。



## 2020年2月 鎌倉市

鎌倉市は、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指し3Rを推進されています。当社は市営施設などへ「ウォータースタンド」を設置し、この取り組みを推進しています。



## 2019年11月 所沢市

所沢市は、「マチごとエコタウン所沢構想」の精神に基づき、ワンウェイ(使い捨て)プラスチックの使用量削減に取り組まれています。当社は市営施設に「ウォータースタンド」を設置し、「マチごとエコタウン所沢構想」の取り組みを推進しています。



## 地域社会と共創する寄付の仕組み

協定締結に基づき設置する「ウォータースタンド」からの給水は無料です。スタンド本体には電子決済サービスで10円の寄付を受け付け、寄付金額がスタンド運営費を超過した場合、超過分は学校等のスタンド無償設置という形で社会に還元していく予定です。

- 給水は無料とし、熱中症対策など地域の健康増進に貢献
- マイボトルの携帯によって使い捨てプラスチックボトル削減に貢献
- 給水スタンド側面で行き組みに賛同する方へ電子決済サービスによる寄付を呼びかけ
- 寄付金額と当社の運営コストを開示
- 運営コストを超過した余剰分は地域の施設(学校など)への給水スタンド新設に充当

2020年7月以降の協定締結に関するニュースについてはウォータースタンド企業情報サイトをご覧ください。 [waterstand.co.jp/csr/bottlefree.html](http://waterstand.co.jp/csr/bottlefree.html)

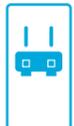
# ウォータースタンドのSDGs達成に向けた取り組み

ウォータースタンド株式会社は事業を通じて持続可能な社会の実現に取り組みます。



**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

SDGsとは？  
2015年9月にニューヨーク国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダの中で、人間、地球及び繁栄のための行動計画として掲げられたものが、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」です。

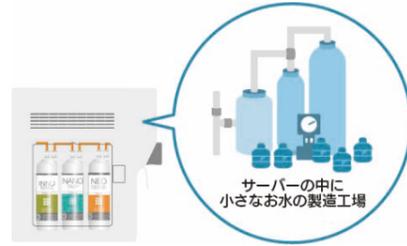
ウォータースタンドの課題認識		ウォータースタンドの取り組み
 <p>安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>● 安全安心でおいしいお水の供給</p>	 <p>2020年6月期 「ウォータースタンド」設置台数</p> <p><b>8.5万台</b></p>
 <p>すべての人に健康と福祉を</p>	<p>● 給水スタンド整備による脱水・熱中症対策</p>	 <p>地方自治体との協定締結に基づく 2020年8月末までの 給水スタンド設置台数</p> <p><b>累計159台</b></p>
 <p>気候変動に具体的な対策を</p>	<p>● プラスチックボトル製造・リサイクル時に発生するCO<sub>2</sub>削減</p>	<p>「ウォータースタンド」からマイボトルに給水することで、 ボトル入り飲料水を消費する際の環境負荷を軽減できる ことを積極的に呼び掛けています。</p>  <p>2020年6月末までに 提供した水筒</p> <p><b>累計18.3万本</b></p>
 <p>海の豊かさを守ろう</p>	<p>● プラスチックボトルごみによる海洋汚染防止</p>	<p>2050年には海洋中のプラスチックの重量が魚の重量を超えると予測されています。</p>
 <p>住み続けられるまちづくりを</p>	<p>● マイボトル普及によるプラスチックボトルごみの削減</p>	<p>日本国内のプラスチックボトル入り飲料水の出荷本数は約250億本に上ります。また、ボトル入り飲料水のうち、お水の割合は年々増加しており、おいしいお水への需要は高まっています。</p>
 <p>つくる責任 つかう責任</p>	<p>● プラスチックボトル生産時および運搬・リサイクル時における使用資源の削減</p>	<p>プラスチックボトルは石油資源に由来する樹脂から製造されます。年々、軽量化やラベルレス化などにより使用資源の削減が図られていますが、限りある資源を有効に活用するためには消費プロセス全般における資源・エネルギー削減が不可欠です。</p>
 <p>働きがいも経済成長も</p>	<p>● 水の安全性を管理する人材の育成・ダイバーシティ推進</p>	<p>ウォータースタンドの事業は、重い荷物を運搬する必要がないためジェンダー・年齢の別なく多様な人材が活躍することができます。当社のミッションとビジョンに共感する人材が力を発揮できるよう、スーパーフレックス制度など制度面の充実を図っています。</p>  <p>2020年6月末 <b>従業員数586人</b> (パート・アルバイト含む)</p>

# ウォータースタンドの強み

水道直結ウォーターサーバー「ウォータースタンド」の強みは長年に亘る技術開発とパートナーシップによるものです。これからも更なる付加価値を提供し、安全安心でおいしいお水をご提供する社会的役割を果たして参ります。

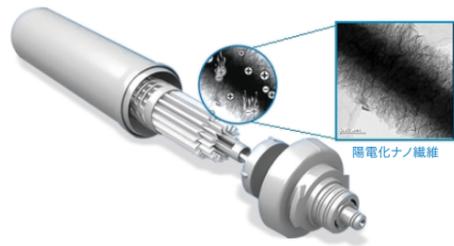
## 強み 1 フィルターの特長

「ウォータースタンド」は、工場でボトル入り飲料水を製造する工程と同様、99.8%※の不純物を除去しおいしいお水を生成します。※ROフィルターの場合



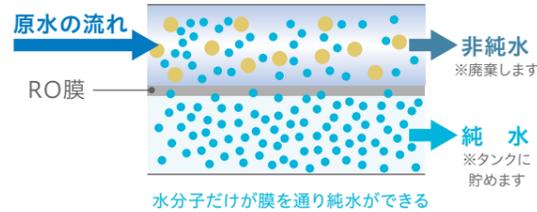
### ナノトラップ・フィルター

ナノトラップ・フィルター(Nano Trap Filter)は、日本語では『静電吸着式フィルター』と呼ばれるものです。『陽電化ナノ繊維』と呼ばれる素材を使用しており、水に溶けない物質が帯電している性質を利用し、静電気作用によって不純物を吸着させ除去します。マイクロフィルターでも除去できない微細なウイルス(ノロ、ロタ、ポリオ等)や、病原性微生物(クリプトスポリジウム、O-157、コレラ等)を除去することが可能です。



### ROフィルター(逆浸透膜)

0.0001ミクロンの微細孔で、有害物質や不純物をろ過分離し、水分子だけを浸透させて純水をつくる仕組みです。原水中の有害物質や不純物は除去されるので、細菌・ウイルスはもちろん、重金属や放射性物質のヨウ素、セシウムなども取り除くことができます。市販の浄水器の中では、最高水準の性能といえます。



図形の意味  
● 水の分子  
● 不純物の分子

## 強み 2 専任スタッフによる設置と定期メンテナンス

「ウォータースタンド」を設置する際は、分岐金具の種類や水源の位置、電源からの距離などを勘案し設置場所を決定します。

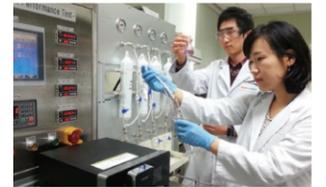
また、「ウォータースタンド」のフィルターは定期的に交換させて頂き、お客様に安心してご使用頂けるようお水の水質を保っています。



## 強み 3 Coway社とのパートナーシップ

### 世界No.1浄水器メーカー 韓国Coway社とのパートナーシップ

当社は世界No.1の浄水器メーカー韓国Coway社の日本における独占的なパートナーです。環境技術研究所であるCoway R&D Centerでは、23名のWQA認定スペシャリスト(CWS)を含む、370名もの研究チームが製品設計・開発、信頼性試験、顧客満足度試験まで徹底的に行っており、日本向けにコンパクトで省エネ性能に優れた機種を開発しています。



- エネルギー使用量の削減に向けた取り組み Energy Winner賞(13年連続受賞)
- 温室効果ガスの削減と低炭素循環型社会の実現に向けた取り組み 韓国で最初のカーボンニュートラル製品認証を取得

### Coway社について

Coway社の浄水器は、国際的な浄水性能認証機関であるNSF Internationalの認証、米国の飲用水関連機器市場において信頼性のある認証マークであるWQA(Water Quality Association)ゴールドシールを獲得しています。また、機能面だけでなく高いデザイン性から世界4大デザイン賞とされる“iF Design Award”、ドイツのreddot、米国のIDEA、日本のグッドデザイン賞を6年連続で受賞しています。

- 売上高 3兆189億ウォン(2019年12月期)
- 従業員 4,988名(2019年12月期)
- 「DJSI World」※構成銘柄に4年連続で選定  
※サステナビリティ投資の株価指標として世界的に認知度の高い「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」
- エコフレンドリー商品売上 552.9億ウォン(2019年12月期)



### 「CES 2020 イノベーションアワード」を5年連続受賞

Consumer Electronics Show(CES)は、最新テクノロジーが集結する世界最大規模の展示会です。Coway社は2020年1月、特に優れた製品に贈られる「CES 2020 イノベーションアワード」を受賞しました。同賞の受賞は2016年に空気清浄機、水道直結ウォーターサーバーなど各種商品に対する受賞以来、5年連続となります。

- 選考基準
- 全米民生技術協会(CTA:「CES」主催者)の選定した技術者、エンジニア、メディアによるチームが審査
  - エンジニアリング、設計、機能面が充実しているか
  - 消費者にとっての魅力があるか
  - 市場の競合他社製品と比較して卓越した面があるか

# ウォータースタンドのあゆみ

ウォータースタンドの歴史はパートナーシップを起点とするイノベーションの連続でした。水道直結ウォーターサーバーのパイオニアとして、これからも付加価値を提供して参ります。



## 1969年～ 50年以上にわたる共創の歴史

社会的なリサイクルへの関心の高まりに先駆け、当社(旧社名:株式会社ジャスト)は再生トナー事業を開始しました。再生トナーはコスト面でお客様にとってメリットがあるだけでなく、環境面でも優位性がある商品です。お客様とのパートナーシップにより、より良い未来を共創して参りました。



## 2012年～ 韓国Coway社との業務提携

2012年、韓国Coway社と業務提携し、高性能浄水ウォーターサーバー(現:「ウォータースタンド」)の取り扱いを本格化しました。

ボトル入り飲料水は使った本数に応じて料金がかさみますが、「ウォータースタンド」のレンタル料金は毎月定額制であるため使えば使うほどコストパフォーマンスが良くなります。

ボトルの配達を依頼する手間、配達されたボトルを待つ時間、サーバーに重いボトルをセットする負荷、ボトルを在庫として置いておくスペース、ワンウェイボトルならばボトルを廃棄する手間などを省くことができ、機能面でもお客様のメリットが大きく、ご契約後1年以上継続して頂いているお客様が94%以上と、顧客満足度の高い商品であることが顕著でした。



## 2018年～ ウォータースタンド事業をコア事業に

2015年9月、国連総会で『我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ』(Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development)と題する成果文書で示された2030年に向けた具体的行動指針が採択されました。そして、地球が限界を迎えているとする警告が多くのニュースで見受けられるようになりました。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「ウォータースタンド」には、機能面での優位性とともにボトル入り飲料水よりも地球環境にとってポジティブな影響があります。

そこで2018年7月、水道直結ウォーターサーバー「ウォータースタンド」のレンタル事業を当社のコア事業とし、ウォータースタンド株式会社として生まれ変わりました。

「ウォータースタンド」を統一ブランド名とし、この商品を使って頂くことによってプラスチックボトルの生産や運搬、回収、リサイクルといった生産工程で排出されるCO<sub>2</sub>や、リサイクルされずに廃棄されるプラスチックの削減に貢献してまいります。

# 未来の世代への約束

ウォータースタンドが取り組むSDGs



## 考え方 方針

ウォータースタンドにとって最も大切なステークホルダーは「未来の世代」です。「未来の世代」のためにより良い地球環境を遺すのはもちろん、「未来の世代」とのパートナーシップにより、社会課題解決に取り組んで参ります。

## 高校生が取り組む社会問題解決プログラム 「海洋プラ問題を解決するのは君だ!」への協賛

“海洋プラ問題を解決するのは君だ!”は「高校生でもできること」「高校生だからできること」をコンセプトに、高校生・高専生の斬新なアイデアと日本屈指の専門家の知見を組み合わせることで、社会問題解決に貢献することを旨とする高校生により企画・運営されているオンラインプログラムです。

当社は、「未来の世代」である高校生・高専生が分野に捉われず海洋プラ問題解決に向けて取り組む本プログラムを支援し、スポンサー企業を代表しコラムを寄稿致しました。



## 公立小中学校へ給水スタンドを無償提供

国内外において拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、感染拡大を防止するために2020年3月から全国の小学校・中学校で休校措置が取られました。これにより夏季休業期間が短縮されたことから、ウォータースタンドでは協定を締結した地方自治体の小学校・中学校に給水スタンドを無償で提供し、熱中症などの健康被害防止を呼びかけました。この取り組みは、「ウォータースタンド」からマイボトルに給水する日々の行為を通じて地球環境の維持・保全との繋がりを理解するという環境教育としての側面もあります。



# お客様への約束

ウォータースタンドが取り組むSDGs



## 考え方 方針

ウォータースタンドは、1969年の創業以来、当社を選んで頂くことがお客様にとってのメリットとなり、更に環境負荷軽減にもつながるような商品・サービスをご提案し、お客様とのパートナーシップを構築して参りました。

## SDGs推進私募債の発行

ウォータースタンドは、事業を通じ熱中症などの健康被害防止に役立つマイボトルによる給水を呼び掛けたり、地方自治体との連携協定に基づきマイボトルに給水できる「給水スタンド」を設置したりと、社会課題解決に事業に組み込み、持続可能な社会の実現に向けた事業経営を行っています。

この度、当社のSDGsへの取り組みに対しSDGsの実現を後押しするりそなグループ傘下の埼玉りそな銀行より同社の審査基準を満たす評価を受け、SDGs私募債による5億円の資金調達を実施しました。埼玉りそな銀行は「SDGs推進私募債」を発行する際の手数料の一部を活用してSDGs関連団体に寄付を行ないます。



## マイボトルアクション2020フォトキャンペーンの実施

ウォータースタンドは日本国内で1年間に出荷されているプラスチックボトル約250億本のうち、30億本の削減を目指しています。ボトル入り飲料水と同様に美味しいお水をマイボトルに給水できれば、この目標達成も夢ではありません。この目的を達成するには、多くの方に「ウォータースタンド」と私たちの思いを知って頂く必要があります。

そこで、2020年8月にSNSを活用し、一般の方に「マイボトルのある暮らし」をテーマに写真を投稿頂くフォトキャンペーンを実施しました。キャンペーン期間中の1か月の間に1,614人の方に参加頂き、マイボトルの使用がより良い未来を創る第一歩となることを呼び掛けることができました。

マイボトルアクション  
参加者数  
**1,614名**



# 従業員への約束

ウォータースタンドが取り組むSDGs



## 考え方 方針

ウォータースタンドは、従業員一人ひとりが事業を通じて社会課題解決に取り組む喜びを感じながら働くことができる場を創出していきます。このことにより、当社自身が持続的に成長しながら持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

## 柔軟かつ多様な働き方の推奨

これからの時代における「豊かさ」とは、経済的な側面と時間的な側面両方における自由度が高い状態となることが予想されます。当社は、従業員が物心両面で豊かさを感じられる働き方ができる職場になることを目指しています。具体的には、全国のショールームで働く従業員が、ショールームスタッフとしての1つの職種に限定されることなく、メンテナンスなどの専門スキルを磨き、スキルを活かして時間の使い方を自分で決められるような新しい働き方のあり方を推奨しています。



ショールームというリアルな場



よろしければ  
お問い合わせ！

オンライン(デジタル)を活用した  
お客様とのコミュニケーション

## 「エコサイクル手当」制度の導入

気候変動問題を始め地球を取り巻く環境の悪化を鑑み、自動車の使用を抑制し、自転車の利用によるCO<sub>2</sub>排出量削減を目的として、2020年5月からエコサイクル手当を導入しました。制度移行によるCO<sub>2</sub>排出削減に加え、新たに入社する従業員の増加により追加的な排出量抑制が可能となりました。



# 環境・社会データ

## 環境データ

### 「ウォータースタンド」累計設置台数5期比較



### 「ウォータースタンド」累計設置台数から算出したプラボトル本数&CO<sub>2</sub>排出量※5期比較



※CO<sub>2</sub>排出量削減推定値：ペットボトルとマイボトル(ステンレス製水筒を100回使用)のCO<sub>2</sub>排出量の差(0.1051kg-CO<sub>2</sub>)と削減本数の積



当社は、「ウォータースタンド」設置台数を基にプラスチックボトル削減本数とこれによる削減CO<sub>2</sub>排出量を推計しています。

プラスチックボトル削減本数は、「ウォータースタンド」設置台数にPETボトルリサイクル推進協議会公表のボトル入り飲料水出荷本数を国内総人口で除した1人あたりボトル入り飲料水使用本数を乗じて算出しています。

「ウォータースタンド」からマイボトルに給水することで削減されるCO<sub>2</sub>自動排出量は、環境省公表の「リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析」の、マイボトル(水筒)の利用に関する環境負荷分析結果を参照し算出しています。

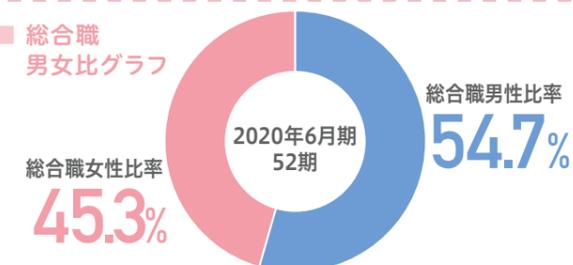
## 社会データ

### SNSによる発信回数 (2019年7月～2020年6月)



## 人事関連データ

### 総合職 男女比グラフ



### アクアソムリエ 有資格者数



## 会社概要

商号 ウォータースタンド株式会社  
設立 1969年3月  
本社所在地 埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-463

役員  
代表取締役 本多 均  
取締役 近藤 紀行  
取締役 皮籠石 剛  
取締役 金 昌勲  
監査役 紺田 和弘  
監査役 永関 恵子

資本金 5,000万円(2020年6月期)  
売上高 82億1,962万円(2020年6月期)  
従業員数 586名(2020年6月期)※パート・アルバイト含む  
社員数 320名



ISO14001 認証取得  
ISAE429 本社

取引銀行 埼玉りそな銀行(与野支店) 三菱UFJ銀行(大宮支店・大宮駅前支店)  
みずほ銀行(大宮支店) 武蔵野銀行(本店) 他  
取引顧客 官公庁・公共施設・各種企業・大規模小売店・商店などの法人、  
および個人宅 約100,000件  
主要取引先 Coway株式会社 シャープ株式会社 ダイキン工業株式会社  
株式会社ナック 株式会社良品計画 三井不動産株式会社 他

## 沿革

- 1969年 3月 資本金200万円にて株式会社サニクリーン大宮(旧社名)設立  
サニクリーン東京のフランチャイジーとしてダストコントロール事業を開始
- 1986年 8月 アメニティ(環境快適化)商品の第一弾として空気清浄機のレンタルを開始  
以降、アメニティ商品の拡充を図る
- 1995年 1月 営業地域の拡大により商号を「株式会社サニクリーンジャスト」に変更する
- 1996年10月 「株式会社ジャスト」に商号を変更し、事業領域を拡大する
- 1998年 6月 サニクリーン本部フランチャイズを離脱
- 1998年 7月 リユーストナー事業開始
- 2000年 9月 オフィス通販事業開始
- 2000年11月 加須工場、加須支店にてISO14001を認証取得
- 2000年12月 地域スポーツ振興のため、浦和レッズに資本参加
- 2004年11月 本社、さいたま支店にてISO14001を認証取得
- 2005年 7月 宅配水事業(ボトルウォーター)開始
- 2011年 4月 新本社(さいたま市大宮区桜木町4-463)建設
- 2012年 2月 Coway株式会社(韓国)と業務提携し、浄水器事業を拡大
- 2013年 8月 Coway株式会社(韓国)から日本コーウェイの事業を譲受
- 2018年 7月 ブランド名との統一を目的とし、商号を「ウォータースタンド株式会社」に変更する
- 2019年 6月 ボトルフリープロジェクト開始
- 2020年 8月 京都市山科区に「山科ショールーム」をオープン
- 2020年 9月 千葉県柏市に「ららぽーと柏の葉ショールーム」オープン

## 加盟団体・支援団体

- 環境 COOL CHOICE ウォータープロジェクト 海ごみゼロ 海と日本プロジェクト  
エコ活動ネットワーク足立EANA 埼玉グリーン購入ネットワーク  
埼玉県森林づくり協定締結 東京都チームもったいない
- 脱プラ おおさかプラスチックごみゼロ宣言 かながわプラごみゼロ宣言  
クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA) プラスチック・スマート・フォーラム
- マイボトル推進 おおさかマイボトルパートナーズ ちばマイボトル・マイカップ協力事業者
- LEED グリーンビルディングジャパン
- SDGs かながわSDGsパートナー 埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム 静岡市SDGs宣言  
地方創生SDGs官民連携プラットフォーム
- 海外支援 CIESEFプラチナサポーター
- 地域貢献 きょうと子育て応援パスポート 埼玉県ロードレポーター さいたま市子ども安全協定  
さいたまロードサポート
- スポーツ支援 T.T彩たま 浦和レッドダイヤモンズ 大宮アルディージャ 埼玉ブロンコス ※50音順

## Web

### ● Webサイト



企業情報サイト  
企業情報について  
[waterstand.co.jp](http://waterstand.co.jp)



サービスサイト  
製品・サービスについて  
[waterstand.jp](http://waterstand.jp)



### ● SNS

ウォータースタンド公式  
**Facebook**  
@waterstand.jp



ウォータースタンド公式  
**Twitter**  
@waterstand\_pr



ウォータースタンド公式  
**Instagram**  
@waterstand.jp



ウォータースタンド公式チャンネル  
**YouTube**



ウォータースタンドは持続可能な水

